

# 環境調査結果のお知らせ

平成21年8月13日  
中央漁業指導所・水産試験場

平成21年8月13日午前10時から野見湾の環境調査をしましたので、結果をお知らせします。

## 概況

野見湾全域で雨の影響が少し残っています。しかし、湾内の透明度は良好です。溶存酸素についても、湾内で酸素飽和度80%を下回る測点はなく、養殖漁場として良い状態になっています。調査した範囲内では有害プランクトンの出現もなく、赤潮の着色域もありませんでした。

## 溶存酸素

溶存酸素濃度は5.6~7.3mg/lでした。前回調査（7月30日、以下同じ）に比べると表層付近では下がっていますが、底層では上がっています。St.1~3は養殖小割に近いため、魚の遊泳層である2~5m付近の溶存酸素濃度が少し低くなっています。底層の酸素濃度の上昇は湾外水が底層から流入したことを示しています（表1・表2）。

## 水温

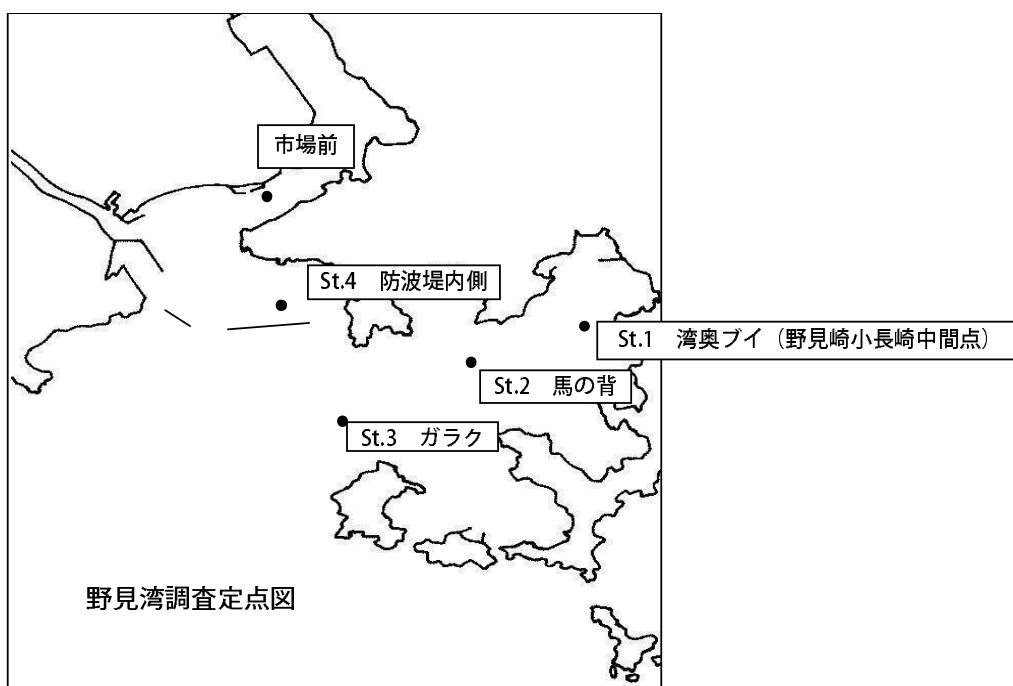
水温は23.1~28.8℃でした。前回調査に比べて5m以浅の表層部では上がりましたが、底層では少し下がっています（表3）。

## 塩分

塩分は25.25~33.89でした。雨の影響が残っているため、前回調査に比べて総体的に低下しています。特に表層から2m位までの塩分低下が大きくなっています。湾内底層では湾外水の流入で塩分は前回調査より少し上がっています（表4）。

## プランクトン

今回調査での出現種類は微細藻類が中心で、シャットネラ等の有害プランクトンの出現はありませんでした。プランクトン調査の結果は3ページ目に記載しています。



「環境調査結果のお知らせ」は下記URLでもご覧いただけます。  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/040409/akashiojoho.html>

## 環境調査結果表（溶存酸素・水温・塩分）

表1 溶存酸素(mg/l)

平成21年8月13日

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~3)	前回調査 (H21.7.30)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	6.6	6.8	6.7	7.3	<b>6.7</b>	7.4	▲ 0.7	7.4
2 m	5.7	6.3	6.7	6.7	<b>6.2</b>	7.5	▲ 1.3	6.3
5 m	5.8	5.6	6.2	6.8	<b>5.8</b>	6.8	▲ 1.0	6.0
10m	6.6	6.1	6.3	6.8	<b>6.3</b>	6.3	0.0	6.3
B-1	6.7	6.1	6.6	6.4	<b>6.5</b>	5.7	0.8	—

表2 溶存酸素(ml/l)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~3)	前回調査 (H21.7.30)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	4.7	4.8	6.7	7.3	<b>5.4</b>	6.0	▲ 0.6	5.2
2 m	4.0	4.4	6.7	6.7	<b>5.0</b>	6.0	▲ 1.0	4.5
5 m	4.1	3.9	6.2	6.8	<b>4.7</b>	5.5	▲ 0.8	4.3
10m	4.7	4.3	6.3	6.8	<b>5.1</b>	5.1	▲ 0.0	4.5
B-1	6.7	6.1	6.6	6.4	<b>6.5</b>	5.7	0.8	—

表3 水温 (°C)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~3)	前回調査 (H21.7.30)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	28.5	28.8	28.2	27.4	<b>28.5</b>	26.7	1.8	28.2
2 m	27.8	27.7	27.6	27.3	<b>27.7</b>	26.0	1.7	27.3
5 m	27.2	27.3	27.3	27.3	<b>27.2</b>	25.2	2.0	27.0
10m	25.0	25.1	26.4	26.0	<b>25.5</b>	24.7	0.7	26.0
B-1	23.8	23.1	24.7	23.7	<b>23.9</b>	24.2	▲ 0.3	—

表4 塩分(ppt)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~3)	前回調査 (H21.7.30)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	27.04	26.41	26.41	25.25	<b>26.62</b>	29.88	▲ 3.26	18.62
2 m	30.78	30.85	30.94	30.86	<b>30.86</b>	32.05	▲ 1.19	30.87
5 m	32.22	32.13	31.96	32.08	<b>32.10</b>	33.02	▲ 0.91	32.19
10m	33.37	33.41	32.82	33.02	<b>33.20</b>	33.43	▲ 0.23	32.92
B-1	33.69	33.89	33.57	33.79	<b>33.72</b>	33.65	0.07	—

表5 水深・透明度 (m)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	市場前
水深(m)	17.4	24.4	16.4	17.1	10.1
透明度(m)	5.2	5.4	5.6	3.7	3.0

## 環境調査結果表（プランクトン）

平成21年8月13日

単位 cells/ml

調査地点・水深		シャットネラ・マリナ シャットネラ・ アンティーカ	カレニア・ミキモトイ	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	優占種
St.1 湾奥ブイ	0 m	0	0	0	微細藻類
	2 m	0	0	0	//
	5 m	0	0	0	//
St.2 馬の背	0 m	0	0	0	微細藻類
	2 m	0	0	0	//
	5 m	0	0	0	//
St.3 ガラク	0 m	0	0	0	微細藻類
	2 m	0	0	0	//
	5 m	0	0	0	//
St.4 津波防波堤 東側	0 m	0	0	0	微細藻類
	2 m	0	0	0	//
	5 m	0	0	0	//
市場前	0 m	0	0	0	微細藻類
	2 m	0	0	0	//
	5 m	0	0	0	//

## プランクトン

今回調査では、有害種のシャットネラ・マリナ、シャットネラ・アンティーカ、カレニア・ミキモトイ、コクロディニウム・ポリクリコイデスはいずれも検出されませんでした。

湾内には微細藻類が出現していますが、量的にはあまり多くなく、透明度は養殖漁場周辺で5m以上になっています。本種は魚類には基本的に無害です。むしろ、海水中の栄養塩類の吸収や光合成による酸素供給に効果が期待できますので、適度な発生は漁場環境にとって有益と考えられます。

高水温や雨の影響など、赤潮発生の条件がそろっていますので、プランクトンの動向（海面の着色、潮の流れ、色、濃さ）と養殖魚の様子には注意するようにしてください。また、有害プランクトンのなかには、海面からは見えにくい中層で増殖する種類もあります。航跡まわりの泡立ちや着色にも注意してください。海の状態や養殖魚の異常を感じたときは、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所までご連絡ください。